

第2回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議  
会 議 録

日 時	平成 27 年 8 月 3 日 18 : 30～20 : 30
場 所	瑞浪市役所 全員協議会室
出席委員	水野 光二 会長（市長） 熊谷 隆男 委員 伊藤 修二 委員 伊藤 光昭 委員 中山 研吾 委員 西尾 隆吏 委員 小池 泰彦 委員 今井 浩光 委員 佐々木 三佳 委員 尾崎 美保子 委員
事務局	勝 康弘（副市長） 水野 正（総務部長） 小栗 英雄（企画政策課長） 梅村 修司（企画政策課課長補佐） 柿内 博貴（企画政策課企画政策係）
次 第	<p>1. 会長挨拶</p> <p>2. 協議事項</p> <p>（1）第1回推進会議の議事録について…資料1</p> <p>（2）市民アンケート及び学生アンケートの結果について …資料2、資料3</p> <p>（3）瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略【素案】について …資料4</p> <p>（4）RESAS を活用した経済分析について…資料5</p> <p>3. その他</p> <p>【配布資料】</p> <p>資料1 第1回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録（案）</p> <p>資料2 瑞浪市市民生活の現状についてのアンケート調査報告書</p> <p>資料3 高校生・大学生の就学・就業に関するアンケート調査報告書</p> <p>資料4 瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略【素案】</p> <p>資料5 RESAS を活用した経済分析【参考資料】</p>

## **推進会議の内容**

### **【事務局】**

それでは定刻となりましたので、ただいまから、第2回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催いたします。

会議の冒頭につきましては、事務局で進行させていただきます。

初めに、会議の会長であります水野市長よりご挨拶を申し上げます。

### **【会長】**

<会長あいさつ>

### **【事務局】**

協議事項に移りたいと思います。以降は、会長の進行でお願いいたします。

### **【会長】**

それでは、これより進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、議題の協議事項でございますけれども、まず、第1回目推進会議の議事録について、事務局より説明をお願いします。

### **【事務局】**

<資料1の説明>

### **【会長】**

よろしかったですか。

### **【事務局】**

資料1は、前回ご出席いただいた皆様方に議論していただいた議事録でございます。事前にお送りしておりますが、特にご意見ですとか、修正点、指摘事項はございませんでしたが、今日お集まりいただいている中で、再確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

### **【会長】**

まず、議事録の件でございますけれども、前回、皆様から、いろいろ貴重なご発言等をいただいたわけでございますけれども、それを、取りまとめさせていただいたわけでございます。ぜひ、またご意見ですとか、修正点がございましたら、ご発言を頂ければと思います。

よろしいでしょうか。

<「はい」の声あり>

それでは、この議事録について、皆様のご承認を頂いたということで、ホームページ等で公表

していきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に移らせていただきたいと思います。市民アンケート及び学生アンケートの結果について、事務局より説明を、よろしくお願いいたします。

### 【事務局】

<資料2、資料3の説明>

### 【会長】

事務局から、アンケート調査の結果につきまして説明がございましたけれども、このことにつきまして、何かご意見、ご質問がございますか。

説明がありましたように、これで市民の皆さん、学生さんの皆さんの方向性を確認したといいますか、どういう事業や施策を織り込んでいけば、それぞれの思いにかなうのか、かなわないのかというようなことの、1つのベースにしていきたいということです。

アンケート調査ですから、どうしても、わからないとか、どちらとも言えないという答えも多いものですから、この辺のところを、どう分析するかというところを、もっと掘り下げなければならない部分もあるわけがございますけど、何か気づかれた点がございましたら、ご発言なども頂ければと思います。

### 【委員】

大学生のアンケートの中で、21 ページに、瑞浪に住まれる方に、これからも瑞浪に住みたいかという設問で、できれば他市に移転したい、すぐにでも移転したいというのは、20.7%、11.2%で、大変多いということで、今の若い方が、住みたいというふうに思ってもらえるようにするには、どうしたらいいのかを考えなければならないということが、1つの課題だと思いました。

### 【事務局】

そこにつきまして、18 ページ、19 ページのところ、地元に残りたいだとか、就職先を決めるに当たって地元を出たいという方にお聞きしますということで、記述していただいています。

都会と比較されますと、どうしても瑞浪市も限界があるというようなことで、やはり学生の思いは、瑞浪市に住んでいて、瑞浪市の高校、大学に通っておられる方は、そうでもないと思いますが、外から来られる方ですと、やはり都会へのあこがれというのはあって、こういう記述になってくると思いますが、これをかなえるといったときに、どうしても難しいこともございますので、今後、就職と同時に帰ってきてもらえる方向で何か考えたいと思います。

### 【会長】

わからないが35%もありますので、わからないと思っている学生たちが、わかるような施策事業を、この学生たちに発信していかないといけないと感じます。

この18 ページ、19 ページのところに、大きなヒントが隠されていると思います。

**【委員】**

アンケートの抽出で、瑞浪市外ということで、500 という抽出のようでは、どちらからということまでは、分析しているのですか。

名古屋に近い方の子どもであるのか、そういうことの統計もとってみえるかどうか、お聞きしたいのですが。

**【事務局】**

現在、住んでいるところについては、お聞きしておりませんが、通える範囲内です。

**【委員】**

市民アンケートの9ページですけれども、アンケートの回答者の年齢構成が、60代、70代が60%ぐらいです。なので、全体の中で年金世代が60%という、そういう回答になっているわけですが、たまたま回答して下さった方が、そういう世代の方が多かったということでしょうか。

**【事務局】**

年代別に均等になるように抽出はしておりますので、回答される方が、高齢者の方が、どうしても回答率が高くなってしまいうことです。

過去と比較いたしましても、25、26、27年の年齢層は棒グラフで、回答割合で示しておりますけれども、若干今回は、60代、70代が多いですが、通年としても高齢者のほうが、回答率が良いという結果になっております。

**【会長】**

各年代、ある意味では、均等に数は出しているのですが、回答していただいた方が、どうしても高齢者の方が中心で、回答率が高くなっているために、このようなグラフになっているということです。

**【事務局】**

均等というのは、年代別に均等ではなくて、無作為ですので、どうしても高齢者の方が、現在36%ぐらいですので、2000のうちで高齢者の方がすごく多いです。全く年代は考慮せずに、無作為で抽出しております。

年代別回答割合を、次回までに用意させていただきます。

**【委員】**

7ページのまちの現状についてというところで、25、26、27年の調査ですけど、27年の調査が、非常にポイントの減少が激しいような感じがします。唯一、働きやすいまちというところだけはプラスになっていますけど、これも抽出の関係で、たまたまポイントが全般的に下がったのか、どうなのか、気になったのですけども。

**【事務局】**

一見すると、階段のように落ちてきているというような見方もありますが、市民の皆さんにとって、今やっている施策が、例えば子育てに関する施策は、医療費の無料化を当時始めたころは、どうしても、そこに市民の皆さんもありがたみを感じて、急に数字が上がり、でも当たり前になってくると、だんだん満足感が落ちてくるというようなことで、そういったことも含めて、何か目新しい施策がないと、満足度というのは上がってこないという気はしますが、あくまでも、これは市民の皆さんが感じておられる割合を示しておりますので、最終的には割合を上げていかなければいけないですので、何とかしなければならぬと思います。

27年度に限って、レベルが落ちているとは思っておりません。データとしては、そういうふうに見えてしまうかもしれませんが。

**【委員】**

働きやすいまちが、上がった理由というのは。

**【事務局】**

働きやすいまちが上がった要因というのは、その理由まで聞いておりませんので、正確な分析はしておりません。

**【会長】**

どちらにいたしましても、このアンケート調査を1つの、市民の皆さんの考え方の、判断基準の1つということに基づき、総合戦略の素案の材料にしていったということで、ご理解をいただければと思います。

また、ぜひ改めまして、このアンケート調査も、いろんなヒントがここに含まれているかと思えますから、ご確認、ご検証を、さらにしていただければありがたいと思います。

それでは、瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案についてでございますけれども、この総合戦略につきましては、産官学労言の、さまざまな方々からご意見をお伺い、策定することとされておりますので、この推進会議では、皆さんからご意見をお伺いしたいと思えます。まずは、事務局より説明をお願いいたします。

**【事務局】**

<資料4の説明 P1～P23>

**【会長】**

国から示されておりますテーマといたしまして、地方人口ビジョンということで、瑞浪市が目指すべき人口ビジョンを、数値的にご説明させていただきましたけど、今までの説明に対して、ご質問ですとか、お気づきの点がございましたら、ご発言をいただければと思いますけど、いかがでしょうか。

ある面では、当たり前のことです。出生率を増やして、転入者を増やして、転出者を減らせば、人口は維持できる、増やせると、そういうことを長々と説明してきたわけですけど。

### 【委員】

6次総で掲げた数字というものが、社人研や創生会議よりも、一番高いところを示しているわけですけども、そのところには、それを凌駕するような、何かアイデアがあって、その6次総で出した数字というのに違いが出ているということで、理解していいわけですか。

### 【事務局】

総合計画は、市民の皆さんのご意見を伺いながらつくっております。既に、この総合戦略をつくる以前から、瑞浪市は人口減というのを、かなり重きを置いて対策しなければならないということで、総合計画をつくっておりますので、具体的な施策は、今度考え続けてまいりますけれども、基本的な考え方としては、あくまでも努力目標ではありますが、総合計画では、人口減少対策は、常に取り組むことということで、ご理解をいただければと思います。

### 【委員】

6次総でつくったこの数字というものを導き出すのには、社人研であるとか、ほかの推計をもとに想定されたものと理解していたわけですけど、そうではなくて、希望値を書かれたということのイメージに聞こえるわけですけども、どこから出した数字なのですか。

### 【事務局】

総合計画のときも、社人研の推計値も分析した上で総合計画をつくりましたので、希望値というよりも、これを実現していくために、総合計画で施策を並べておりまして、これによって頑張っていくしかないんですけど、かなり高い目標数値ではあるのですが。

### 【会長】

総合計画というのは、向こう10年間ですので、平成35年までということは2023年です。この間は、何とか現状の4万人を維持したいということで、総合計画を策定させていただきました。この10年間、4万人を維持するためには、どういうことをやらなければならないかということを、総合計画の中にとらわらせていただいております。

2024年以降は、第7次総合計画になっていくわけですから、そのときには、一番上のグリーンのような人口になっていくのかと、ご理解いただけるとありがたいと思いますんですけど、2060年まで4万人を維持するよということをうたってはいませんので、第6次総合計画というのは、10年間は4万人を何とか維持していきたいということで、何をやらなければならないかということを示させていただいているのが、第6次総合計画です。

そこにうたってあります、人口を維持するための施策として、3プラス1という施策事業をそこに列記させていただいて、これを実現していけば、何とか10年間は、4万人は維持できる、もしくは、それに近い数字は維持できるという、計画を立てさせていただいたわけですので、ご

理解をいただきたいと思います。

それでも、長いスパンで見れば、減っていつてしまうということです。

そのほか、この人口ビジョンについてのご質問、ご意見ございましたらどうぞ。

### 【事務局】

社人研の推計値というのは、どうやってつくったかというと、出生率が1.48程度まで落ちていった、さらに、社会増減についても、瑞浪市は9年下り勾配である、その勾配のまま落ちていくと、2040年には2万9,500人ぐらいになってしまう。現状、何もしなければこうなるよというのが、社人研の推計値です。

今何もしなければ、3万5,900という数字があって、3プラス1を行って、4,000人を上乗せしようという、そういう流れできますので、今、それぞれの施策で、何をどれだけ増やすという部分ではないのですが、総合的な事業として増やしていくということでやっていますので、よろしくお願ひします。

### 【委員】

そうしたら、創生会議の出している数字というのは、どういうことですか。

### 【事務局】

創生会議のほうは、出生率をもっと落ちます。

出生率というよりも、若い女性が都会へ出ていく割合で見えていきますから、当然、出生率も下がってくるという見方です。

だから、何も変わらずに、総人口の中に占める女性の、子どもを生める年代の女性が、今のまま出ていったとしたら、出生率も上がるどころか、もっと下がるというイメージです。

### 【会長】

それは当然、女性が瑞浪市内から少なくなっていけば、赤ちゃんは生まれなくなっていくわけですから、黙っていても人口は減っていきますので。

創生会議は、女性の移動を、ものすごく減少に見ているわけです。特に瑞浪、多治見、恵那は、女性の人口が一気に減っていくという推計です。土岐市と中津市は維持できるということで、消滅可能性都市から外れているのです。

### 【事務局】

中学が増えて、高校や大学に行くようになると、それが減るという部分があるのですが、その辺の数字の見方が、日本創生会議は、どういうふうに見ているかというのは、よくわからないのですが、若い人が減るといふ推計をされると、どんどん若い女性たちが出ていつてしまうという推計になるのではないかと思います。

出生率を上げて、社会減を減らすという施策で、何とかもっていきたいと思います。

## 【会長】

23 ページをもう 1 回お聞きいただきたいと思いますが、ここの瑞浪市の将来展望ということですけれども、2060 年、平成 72 年を 3 万 4,000 人程度の人口を確保するというのを、この総合戦略の中で目指す数値ということで示していきたいということをご理解いただきたいです。特に 10 年間は何とか 4 万人を維持したいということですが、そのベースとなるものは、今、説明してきました社人研や地方創生の数値を基に推計し、これから議論をいただきます戦略を、そこに加えることによって、何とか社人研や日本創生会議が示す人口よりも上へ行きたいということです。国が示しております 1 億人を国が確保するというのであれば、瑞浪市は、そうしますと 3 万 2,148 人、2060 年には、そのぐらいの人口を維持しないと瑞浪市の役割が果たせないということです。そういうことで、取りあえず人口の将来展望を位置づけていきたいということでご理解いただければと思います。

では、この人口展望を維持するための総合戦略は何をやっていくかということにつきまして、めざす目標は出生率を 2.1、そして転入、転出の中で転出を減らすということについて総合戦略を、これから議論していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、24 ページから説明をお願いします。

## 【事務局】

<資料 4 の説明 P24～>

## 【会長】

第 3 章のもう 1 つのテーマであります地方版総合戦略の概略を説明させていただきましたけど、まずは 1 つずついきたいと思いますが、基本目標の 1、魅力的な暮らしを創造する、これに関する事業など掲げさせていただいております。ここまですべて、まずご意見、もしくは、もっとこういう事業をやったらどうだというような具体的なご提案がありましたら、ぜひ発表いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

## 【委員】

空き家・空き地が増えており、私も希望の方を連れて案内して回ることもありますが、土地の転用という質問を、よく受けるのです。何で田んぼの土地がもらえないのですかという、都会の人の質問ですから、農業をやっている人しか、その土地は買えないということになる。そうすると、逆に田んぼを手放したい方も地目を変更してもらうという作業が必要ですが、そのところの理解が進まない。

それで、もう 1 つは、家を壊す費用が 100 万円かかったとすると、土地代 100 万円でもいいので壊してくださいということと言われる。どういうことかという、直して使おうというのには、さらにお金がかかってしまうので、土地を買った上に建物を直せということになると、空き家自体が高いものになってしまう。すると、空き家自体が安いという感覚ではなくて、かえってお金がかかるということの話を詰めていくと、建物を壊す金は誰が持つのですかと言ったら、持っている人が壊すということになる、そういうことの相談というものが、不動産屋を通すと、なかなかできない



ということがあって、そういう相談ができる窓口というものと、非常にわかりやすのではないかと。

特に相続をされた若い方は相談するすべがないので、相談できる窓口というものが重要だと。不動産屋に相談すれば、相談しただけでもお金がかかってしまうという。そうしたことを思うと、そういう相談窓口をつくる事業というのが必要ではないかなということは、1つ提案でありますけども、最近、特にそういうことを思います。

### 【事務局】

移住定住の相談事業ということで、事業を加えさせていただくように考えさせていただきたいと  
思います。

### 【委員】

一番難しいのは、やはり子どもを産むということで、まず結婚させなければならないわけです。結婚するには、この中で見ますと28ページに婚活支援事業とあるのですが、街コンなどいろいろやっていたわけですが、情報収集しながら、いい成果のあるやり方をして、まずは結婚してもらわなければならないと思います。これが一番難しいと思います。それで結婚して子どもが生まれれば、住んでもらえると思いますから。

それから、もう1つ、ポーノポークの話がありましたけど、東海ウォーカーという雑誌があって、編集長がポーノポークの特集、レストランと組んで特集をやったほうがいいと。それは絶対にPRできると思います。東海ウォーカーといえば、東海地方で結構売れているので。ただ、特集をやるお金がかかるわけですが、そういうものを使うとPRにはなると思います。

### 【会長】

今の婚活の問題も含めて、ここには婚活支援事業ということで書いてありますけども、もっと効果が上がるような婚活支援事業を位置づけていかないといけないというご提案と  
思いますし、ポーノポークに限らず、やはり瑞浪市の特産品魅力をいかに発信するか。それに対する、事業化というのも重きを置く必要があるのではないかと  
いうご提案と  
思います。

そのほか、どうでしょうか。

### 【委員】

自治会加入促進事業というのは、やっと取り上げてもらえたという感もするわけですが、これから検討されるということでしょうけど、できるなら、例えば、行政のほうで1つの案を提案されて、区長会のほうに、こうしてやっていきなさいということだと、なかなか足並みがそろわないと思うのです。市全体で、市民に対して、自治会に入っていない人たちに入ってもらうように促すような方法を検討していただけると、ありがたいと思うのです。区長会に任せるのではなく。

### 【会長】

それは区長会に任すだけではいけないと思います。

### 【事務局】

まちづくり基本条例で、行政も積極的に民間アパートであるとか、そういうところについてもPRしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

### 【会長】

細かく区切っていこうと思いましたが、自治会加入促進事業のことについて発言がありましたので、総合戦略全般で結構です。この会議は各ジャンルの方から発言をいただくというのが国からの条件になっておりますので、自治会の代表の委員から発言がありましたけど、できたら、発言していない委員さんも全般で結構です。何か気づかれた事業に対してのご発言でも結構ですし、何かありましたら、どうでしょうか。

### 【委員】

自分のことになってしまうのですが、高校生になるとすごくお金がかかるということがあって、中学生までは医療費もありがたいのですが、高校生になると部活ももっとハードになって、もっと医療費がかかってしまうので、そういうところは何かないかと思います。

### 【会長】

高校生までの医療費の無料化ということも1つの大切な課題ではありますが、市としては、やはり義務教育までの教育環境を支援していきたいという思いがありまして、高校はどうしても任意でそれぞれが進学されていきますので、高校はそれぞれの家庭でご負担いただいて、それよりも赤ちゃんから中学校卒業までの、まだまだ充実しなければならない部分がありますので、高校生よりも、まず下を重視したいという思いがあります。ただ、今後の総合戦略を考えますので、今、委員が言っていたようなことも検討していかなければならないと思います。

### 【事務局】

計画の中では、中学生までの支援というのがありますが、中学卒業してからの支援というのはありませんので、それについても検討して、入れられるものがありましたら、入れていきたいと思っています。

いろんな方法があると思うのですが、無料という形もあると思いますし、助成という応援の仕方もあると思いますので、ご意見として、高校生がやはり困っているというご意見ですので、検討の中に入れてたいと思います。

### 【委員】

7番のママ・カフェギャラリー支援事業、こういうものが前にあったら良かったというのを感じました。そうすると、その立場の人たちが集まって話せると、とても気も楽になるし、これが27年から検討しますと書いてあるので、これはいいと思いました。

## 【会長】

これも早い段階でやりたいと思っておりますけど、核家族化になって、昔ですと、おじいさんやおばあさんが同居してて、そこでいろいろアドバイスも受けられたのだけど、今は若い方は若い方でアパートに住んだり、家を建てられたりというような状況ですから、どうしても身近に相談する相手がいない。そうすると育児ノイローゼになってしまったりとか、鬱になってしまったりとか、いろんなこともあるみたいですので、気楽に近くで子どもと一緒に過ごせるような、そして、その間にお母さんやお父さんの悩みを聞いてもらうような、アドバイスをいただけるような、そんな場所が多治見にはあるのですが、そういうものも、やはり瑞浪市でも必要だということです。

## 【委員】

中学校の統廃合に関して、家庭に負担のかかることが多くなるのではないかと思うことがあるのですが、私の住んでいたところは小さな地域だったので、小学校は分校だったのですが、これが本校と統合することによって当時の中津川市教育委員会も、いろいろ検討してくれて、北恵那バスで教育委員会が定期を買ってくれて、それで小中学生は通学するということになっているのですが、現実には中学生になると行事があるし、部活の朝練があれば、公共交通機関のバスの本数が少ないので、公共交通機関では間に合わない。それなら、結局、親が送っていかなければいけない。夏休みになると、いろんな部活があって、いろんな行事があると、朝送って行って、昼ごろ帰ってくるのにもバスがないので、結局、迎えに行かなければならなくなってくると、母親がパートなどを休んで迎えに行ったりということで、何かあるたびに親が送り迎えをしなければならないという現状になるのです。

瑞浪市も中学校の統廃合があると、広い地域のところが1つのところに集まってきたときに、どういう通学方法であるというか、瑞浪市の公共交通機関というのは、コミュニティバスも1日に数本しか走らない箇所があったりとかで、そうなったときに、かえって親への負担が大きくなって、ここの基本目標2にある、学校・家庭・地域が連携して子どもの成長と安全を支えているというところの家庭の負担というのが、どのぐらい大きくなるのだろうかということが、統合することによりプラスになるのか、親にとって負担が増えることによって、もっと便利な地域、同じ瑞浪市の中でも便利なところに移って行ってしまわないか。そういうところは、少し心配になると思います。

## 【会長】

瑞浪市も教育環境の向上ということで、もちろん統合に対してのメリット、デメリットはありますけども、総合的に検討して、やはり中学校の統合の必要性を判断しまして、進めております。

当然、負担が増えることはあります。増える負担をゼロにはできないけれども、軽減をする努力はさせていただいておりますので、その辺のところはご理解をいただく中で、今、統合を進めてますから、この総合戦略の中に、その辺の負担軽減を新たに織り込むかどうかというところについてのご提言です。

## 【事務局】

統合につきましては、統合する学校というのはスクールバス対応ということで、通常の公共交通を使うという前提ではございません。当然、今もありますように、クラブ活動、部活もありますので、その辺の対応も教育委員会のほうで行ってきているということです。

あと、地域との連携的な部分につきましても、この中で入れられれば入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

### 【会長】

基本的には学校の授業に関しては、足の確保というのは必要です。ただ、瑞浪市の場合は土日はクラブ活動になっているのです。学校の教育から離れたところで地域の皆さんやスポーツの専門家の方が子どもたちを集めてテニスとか野球とかサッカーとか、教えてくれていますので、それに関しては、親御さんが送り迎えするというのが実情です。だから、統合するからといって親御さんの土日の送り迎えが増えるという部分はないと思います。ただ、近くに練習場があれば自転車で子どもたちが行けるということはあったでしょうけど、それが遠くのところになると、クラブ活動に参加するにしても自転車で行けなくなるということは確かにありますので、その辺のところは、考えていますか。

### 【事務局】

その辺については対応できるような形で、土日に全て練習するわけではないですので、対応できるところはしていくということで考えております。環境が悪くならないように、統合を総合的に考えて、やっていっていますので、どこかの部分で全てをカバーしきるということはできないですけれども、市のほうも、できるだけカバーできるところはしていきたいと思っています。ご意見をいただきましたので、そういう観点からも、一度、教育委員会とも話をして、何か対策はあるのかということは検討していきたいと思っています。

### 【会長】

移住、定住をしてもらおうと思いますと、教育環境が整っているかどうかというのが、瑞浪市を選んでもいただく場合の大きなキーポイントになりますので、瑞浪市は他市に比べて教育環境がいいというところをアピールしようと考えています。瑞浪市の魅力が半減してはいけないので、しっかり対応させていただきますので、よろしくお願いします。

### 【委員】

婚活支援事業というのがあると思うのですが、例えば、今、市内で結婚適齢期の方が、どれぐらい独身の方がいるとか、その中でも結婚を希望されている方が、どれぐらいいるかというのが、ある程度、何か数字として把握されているのか。もしあれば教えていただきたいのですが。

### 【事務局】

企画政策課では把握していないのですが、事業担当課の市民協働課では、この婚活支援事業は26年度から既にやっておりまして、その前提条件として数は把握しているのですが。

**【委員】**

そういう資料はあるということですか。

**【事務局】**

はい。

**【委員】**

僕の周りでも、まだ結婚していない方が結構多いので、希望されて結婚しないのか、結婚したいという思いがあって結婚できないのかというのを、そういう詳しいアンケートがあれば。

**【事務局】**

この年代で未婚の方が何人いるかというのはデータでわかりますが、皆さんが、どういうご意向かというのはわかりません。

**【委員】**

プライバシーの問題があって難しいと思うのですが、ある程度、深く入っていけば、きっと、やり方も変わってくると思います。

もう1つ、移住の件ですけど、僕が職業で陶芸用の粘土を扱っていて、そういう陶芸家の方というのは、結構、知り合いに多いのですが、焼き物をやる環境として、この東濃3市というのは非常に魅力がある。地元で活動していきたいということで、家を探している方もみえるのですが、なかなか条件に合う物件がないというのが、よく聞く話で、陶芸家として最初から生計を立てていくというのは非常に厳しいので、やはり金額的な問題が大きいと思います。そういったことも踏まえた相談に乗っていただけるような形があったら、非常にありがたいと思います。このまちが、そういった魅力を持って来たいという方がみえるので、そういう方に定住していただけるような支援もしていただければと思います。

**【会長】**

ぜひ、そういう情報がありましたら、ご相談いただければと思います。

**【事務局】**

市民協働課にご相談ください。陶芸家の移住の相談は、おっしゃるとおりニーズは高いです。相談は常に乗っておりますので、どんどん相談いただければと思います。

**【委員】**

実際に話が進んだケースというのはあるのですか。

**【事務局】**

現場を見ていただいたりしたのですが、やはり、ほかにいいところがあるとか、条件に合わないというところで、まだ当時はバンクを開設したばかりだったものですから、条件に合うところは提示できませんでしたが、今後、バンクの物件がたくさん乗ってくれば、対応できると思います。

#### 【会長】

具体的に言いますと、大湫町は積極的に、そういう陶芸家を招き入れたいというようなことを、まち全体で考えていますし、そういうことに対して大湫町独自の支援をしたいというようなことを大湫町の皆さんは考えていますから、まちづくり推進部へご意見やご相談、または情報をいただければ、一生懸命対応させていただきますので、お願いします。

#### 【事務局】

先ほど他の委員からもお話がありました相談事業という看板を、やはり上げたほうがいいと思いますので、移住定住の相談事業みたいなソフト事業を考えていきたいと思います。

#### 【会長】

ワンストップではないけど、そこだったら全て相談できると、そのぐらいのことは必要かもしれません。

#### 【事務局】

幹旋というと、どうしても業者の幹旋ということになる可能性もあります。その辺の相談事業を、どういうふうに組み立てるかということは、こちらで考えさせていただきたいと思います。

#### 【委員】

全国的に、地方は移住定住ということで、みんな来てくださいとやっているのですが、瑞浪市は焼き物をするということでは、非常に恵まれた土地ではあるので、ひとつ看板を大きく挙げていただいても面白いと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

#### 【事務局】

移住定住のパンフレットをつくっております、瑞浪市の魅力をPRしながら施策も紹介しておりますので、またその辺も大いに使っていきたいと思っております。

#### 【会長】

いいことをやっても、なかなか市民の皆さんに伝わっていない、もしくは市外の方に伝わっていないというのが、瑞浪市の大きな課題でもあるのです。そこが悩ましいところです。

#### 【委員】

本当に素晴らしい事業をいろいろと計画されていると思います。ただ、どういうふうに伝わって

みえるかということについて、この市民アンケートの33ページですけど、例えば、まちづくり基本条例を知っていますかという問いについて20代、30代の方は全く聞いたことがない、ほとんど知らないという答えが返ってきていまして、高齢の方ほど、よくご存じであるといった傾向があると思います。こういった素晴らしい事業を、いろいろ計画されて、今後やっていかれるにしても、まちづくり基本条例のように、若い人になかなか伝わらないということが、問題になるのではないかと思います。特に若い人は、今後、移動の可能性がありますので、特に若い人へのPRということも重点戦略に含めて考えた方がいいと感じます。

それから、32ページの年代別の分析を見ますと、若い人と高齢の方とでは、どんなことをやってほしいかと考えてみえることが、だいぶ違うということがわかります。特に若い人でいいますと、子育て支援やまちなみ事業だとか、そういったようなことには高齢者の方と比べてポイントが高いといった傾向もありますので、若い人が興味を持ってみえるような、そういう項目について、若い人へのPRを重点的に行っていくといったことが、特に今後、移動の可能性がある若い人への良いアピールになると思いました。

### 【会長】

先ほどのアンケートの話もありましたけど、わからない、どちらとも言えないという世代は、若い人に多いのです。どちらとも言えないという方に、どちらとも言えないではなく、瑞浪に住みたいと思っていただけるような、判断をしていただける情報を、いかに届けるかということは大変大切なことで、一律の情報発信では、高齢者しかキャッチしてくれない。若い人がキャッチしてくれるような情報の発信の仕方を考えないといけないかもしれないです。その辺のところも大切なことだと思います。

### 【委員】

先ほど農地中間管理事業で耕作放棄地を早急に活用していくと言われましたけど、今、市民農園は実際どうなっているのですか。

### 【事務局】

来月の広報にも、市民農園の募集をかけております。農業委員会が窓口で行っていますが、PR不足です。

### 【委員】

テレビによく出ているのは、例えば、過疎地へ行って定住するときに、必ず農家があって、畑があって、それが老後の生きがいになっているというのは、高齢者がどんどん増えていくわけです。何か生きがいを求めていくというときに、手軽な生きがいというと、高齢者にとって畑仕事が一番手っ取り早いと思います。私が住んでいる近くでも、畑をやっている人が随分いますが、畑のない人もいっぱいいるわけです。人の土地を借りることはできないですから、一番手っ取り早いのは市民農園です。

### 【事務局】

市民農園につきましては、遊休農地を活用していただくことで、農業委員会を通して農業委員会で、市民農園を募集していますけども、我々は区画整理をした土地については、本来、市民農園をやっていただくよりも買い取りしていただきたいというのが施策の方向ですので、できましたら区画整理地内は全て宅地になってほしいと思っております。

それ以外に、新たに就労される方というのは農業経営を始める青年就農給付金というのがあります。市民農園については、空いているところで募集のあったところを使っていただく程度と考えておりますので、区画整理地内の土地で農業をやっていただくというのは、あまり推奨していきべきものではないと考えておりますけど、希望がありますし、現に農地がありますし、使ってほしいという方がありますので、それは斡旋をして使っているということですので。しかし、市としては、できれば、それは宅地になっていただきたいと思っております。

ですから、窯焼きとか陶芸家を目指されるような方がみえたときと同じように、農業をやりたいという方がみえれば、それは斡旋することはできると思っておりますので、相談窓口をつくって、相談に乗っていただけるような形にはしたいと思っております。

### 【委員】

老後の生きがいに、何かあったらということ。

### 【会長】

活発な発言をいただきましたので、時間もなくなってきましたけれども、そのほか、どうしても発言しておきたいということがありましたら、どうでしょうか。

### 【委員】

創業支援の事業というのは、10年、20年、30年先の雇用という部分も考えると、非常にいいことだと思っております。私たち金融協会としても、当然、金融面でサポートしないとイケないということで、9月ぐらいに市役所の商工観光課の方も交えて、金融機関と市と商工会議所で、連携をして仕組みをつくらうという話をしているところで、そういう部分において金融機関も何か協力ができることがあればというところが1つあります。

それ以外にもう1つ、事業承継ということで、後継者がみえない事業所というのが増えてきていますので、その辺のサポートができるのか非常に難しいのですが、これも市と商工会議所と金融機関が連携して、うまく何か形ができれば、雇用の確保という部分においては、事業所が継続していくということで、何らかの雇用の確保ということにつながっていくと思っております。

### 【会長】

後継者がいないから、私の代で事業をやめますというのが、やはり多いです。せっかく軌道に乗っていても、やむなくやめたり、やはり小さい事業だと、私の代でもうやめということで終わられてしまった方もみえますので、それは次の課題かもしれないです。

取りあえず、今は第二創業とか、新規で脱サラして事業を始めたい、そういう方々が今は対象で



すけど、ぜひ、そのところをご提案としていただいております。

### 【委員】

婚活支援事業について、広報で、そういう出会い、ふれあいパーティというのを見たという人に、そういうのをどう思うか聞くと、行きたいけど、皆さん来てるのかしらと、その一步が多分出られない方が結構みえて、でも、そういう方も、広報もしっかり見ないようなこともあるので、それを知らないこともあって、もっと、そういうのが浸透されるといいと思ったり、もう少し行きやすい雰囲気があるといいと思いました。

### 【会長】

もっと広報しなければならない。今は年に3回やっていますけど、1回あたり、女性が20名から30名、男性が30名から40名ぐらいで、1回やりますと6組から8組ぐらいのカップルができるのです。そこから結婚までいかれる方が1組あるかないか。それを3回やっているのです。だから、多くの方が参加をいただくのですけど。結婚相談所も、今、結婚相談員を6人、瑞浪市はお願いしているのです。ハートピアで定期的に結婚相談日を設けて、結婚相談に乗っておりますし、リストもつくっていますし、婚活パーティの情報も提供させていただいて、こういうパーティがあるから参加されたらどうですかということも、結婚相談員からもご紹介させていただいているのですけど、広く的確に必要な方に伝わっていないことは事実です。どうしても、我々がやっているのは広報みずなみか、ホームページか、新聞で時々ニュースとして載るのです、記事として載せてはいただいているのですけど、若い人は見ないです。新聞を取っている人も少ないですし。

親同士だったら、広報みずなみや新聞は読んでいるはずだけど、娘や息子に声をかけてもえれば、ありがたいですけど。活発にやっているのです。

大変な貴重な時間、また、多くのご意見をいただきました。まだまだお考えになっていることもあるかもしれませんが、一旦ここで今日は締めさせていただきました。いただきましたご意見については改めまして、今日、お示しした素案の中に反映できるものは反映していきたいと思っておりますし、今後、パブリックコメントで、取りあえずこの素案を市民の皆さんにお示しして、広く市民の皆さんからもこの素案に対してご意見をいただきたいということを、これからやらさせていただきますので、そのパブリックコメントのスケジュールを、事務局、説明してもらっていいですか。

### 【事務局】

8月15日号の広報で載せまされども、8月17日から9月17日までパブリックコメント期間として市民の皆さんから今日お示しをした案でもってご意見をいただくということを、させていただきます。

### 【会長】

今日の委員の皆さんにおかれましても、資料を持ち帰っていただきまして、よくご覧になっていただいて、9月17日までご意見をいただく期間がございまして、まとめていただく、もしくは地域のお知り合いの方の意見を聞いてもらってもいいと思っておりますけど、ぜひ事務局のほうへご提言を

いただければ、そのご提言も、この素案の中に反映させていただき、最終案をまとめたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、協議事項（3）につきましては、ここで締めさせていただきます、4の説明をお願いします。

### **【事務局】**

資料5は、時間も押しておりますので、次回説明させていただきたいと思います。いわゆる瑞浪市の経済状況を分析しておりますので、ご覧いただければわかると思いますが、時間の関係で割愛させていただきたいと思います。

### **【会長】**

今日の第2回目の推進会議は、これで閉じさせていただきたいと思います。本当に活発なご発言をいただきまして、ありがとうございました。

これからも、引き続きでございますので、9月17日までパブリックコメントをして、広く市民の皆さんからも意見を伺いますし、また議会のほうからもご意見があればいただきたいと思ひますし、各種団体の代表の方が来てみえますので、それぞれ各種団体に持ち帰っていただいて、何か意見ありませんか、今パブリックコメントが始まっていますから、どうかホームページ等を見てくださいというような紹介もいただければ、ありがたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。